

2021年8月中旬配本予定

そこにすべてがあった

バッファロー・クリーク洪水と集会的トラウマの社会学

カイ・T・エリクソン = 著

宮前良平・大門大朗・高原耕平 = 訳 川名潤 = 装幀

圧倒的悲劇を目にし、すべてを喪い、コミュニティさえ崩れ去ったとき、人びとの心に何が起きるのか。

半世紀の時を超えて響く、被災者たちの声。

「集会的トラウマ」に輪郭を与えたアメリカ社会学の古典、若き災害研究者による待望の邦訳

1972年2月26日、大雨で鉱山ゴミのダムが決壊し、アメリカ・ウェストヴァージニア州の炭鉱町バッファロー・クリークは、黒い水にのみこまれた——死者125人、住民の8割が家を失った未曾有の人災は、コミュニティの崩壊をもたらし、生存者たちの心に深いトラウマを残しました。本書は、被災者への膨大なインタビューと綿密なフィールドワークで、被災地における「集会的トラウマ」の輪郭を描き出した古典として、約50年もの間世界で読み継がれています。

訳者は、大阪大学大学院で災害学を学んだ、当時20代の研究者たち。被災地で活動する中で、非当事者としてのかかわりに悩んでいたとき本書に出会い、被災者の声を丁寧に読むことで聴ける声があると気づきます。

東日本大震災から10年。50年前のアメリカの災害の記録が、コロナ禍の現代を生きる私たちに訴えかけるものとは——。台風シーズンを前にぜひ手にとっていただきたい、示唆に富む一冊です。

自然災害に直面した人びとの悲しみを丹念に描きながら、社会の真実を暴き出す、心を揺さぶる稀有な書。

—— アンソニー・ルイス (ジャーナリスト)

本書の翻訳は私たちにとって、当事者と非当事者のあいから言葉を生み出していく作業でもあった。

—— 宮前良平 「空白と傷：訳者解題のためのノート」より

EVERYTHING IN ITS PATH

Destruction of Community in the Buffalo Creek Flood
Kai T. Erikson



そこにすべてがあった

バッファロー・クリーク洪水と集会的トラウマの社会学

カイ・T・エリクソン

宮前良平 大門大朗 高原耕平 訳

圧倒的悲劇を目にし、すべてを喪い、コミュニティさえ崩れ去ったとき、人びとの心に何が起きるのか。半世紀の時を超えて響く、被災者たちの声。

アメリカ社会学の古典、若き災害研究者による待望の邦訳。

空白の傷を聴く

本体 2,400円 + 税

384頁 / 四六判・上製

ISBN : 978-4-909179-07-4 C0011

著者：カイ・T・エリクソン Kai T. Erikson

アメリカの社会学者。1931年生。マーシャル諸島での核実験やスリーマイル島原子力発電所事故、エクソンヴァルディーズ号原油流出事故など、人的災害研究の第一人者として知られる。著書に『あぶれビューリタン 逸脱の社会学』（村上直之・岩田強訳、現代人文社）。

訳者：宮前良平 (みやまえりょうへい)

1991年生。大阪大学大学院人間科学研究科助教ほか。専門は災害心理学、グループ・ダイナミックス。著書に『復興のための記憶論—野田村被災写真返却お茶会のエスノグラフィー』（大阪大学出版会）。

大門大朗 (だいもん ひろあき)

1991年生。京都大学防災研究所特別研究員、デラウェア大学災害研究センター客員研究員ほか。専門はグループ・ダイナミックス。

高原耕平 (たかはら こうへい)

1983年生。人と防災未来センター主任研究員。専門は臨床哲学。兵庫県下の「震災学習」および減災システム社会の技術論を研究。

内容のお問い合わせ、イベントのご相談は、夕書房 (せきしょぼう)・高松まで TEL: 090-6563-2762 info@sekishobo.com

▶ご注文はツバメ出版流通まで

FAX: 03-3721-1922

mail: info@tsubamebook.com

TEL: 03-6715-6121 http://tsubamebook.com

貴店名 (番線印)	夕書房 新刊		http://www.sekishobo.com
			返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通：川人
注文数	そこにすべてがあった		
	バッファロー・クリーク洪水と集会的トラウマの社会学		
	本体 2,400円 + 税 / 384頁 / 四六判・上製		
	ISBN : 978-4-909179-07-4 C0011		
ご担当： 様	冊		